

第 33 卷 PDF 読本



伊豆急行・伊東線（伊豆急下田～熱海）

伊豆箱根鉄道（駿豆線・大雄山線）

箱根登山鉄道（強羅～小田原）

2024年10月25日 歩く鉄道作家 檜原 勉

<目次>

はじめに

第1章 伊豆急行・伊東線（伊豆急下田～熱海） 5

第2章 伊豆箱根鉄道（駿豆線） 23

第3章 伊豆箱根鉄道（大雄山線） 37

第4章 箱根登山鉄道（強羅～小田原） . . . 41

伊東線（熱海～伊東）：16.9 km

伊豆急行（伊東～伊豆急下田）：45.7 km

駿豆線（三島～修善寺）：19.8 km

大雄山線（小田原～大雄山）：9.6 km

箱根登山鉄道（小田原～強羅）：15.0km

総営業キロ 107.0 k m

はじめに

本著書はデジタル形態のシリーズもので、「こだわり鉄道つたい歩き」よる PDF 読本旅日記の手記記録です。これまでの 5 巻（うち 2 巻は書籍）については、稚内から鹿児島までの日本縦断の旅について描いたもので、お陰様で執筆が完了しました。

引き続き、第 6 巻目からは、“日本横断歩き鉄の旅”について連載しています。第 28 弾目として、東海道本線に接続する、神奈川県・静岡県を走る、温泉地が一杯の伊豆急行・伊東線・伊豆箱根鉄道・箱根登山鉄道の旅（総営業キロ 107.0 km）について執筆させていただきました。

本作品はカッシー館にある檜原勉文庫拡充で閲覧可能です。また、国立国会図書館でご承認を得れば、通算 42 作目の著書として国立国会図書館でも閲覧できます。

(2001 年 7 月～2022 年 1 月で踏破)

こだわり鉄道つたい歩きとは、カッシー館でもご紹介している通り、九ヶ条から構成されます。

1. ウォークマンを聴きながら一人歩きを楽しむ
2. “鉄道案内人”に従って各駅を踏破する
3. メモや写真をとりながら筋書きのないドラマを楽しむ
4. 必殺仕事人の心境で歩く
5. 出発点は先憂後楽の考えに基づき決める
6. 歩く鉄道営業キロは季節を考慮して決める
7. 活動記録をとっている
8. 青春 18 きっぷを極力活用する
9. 東横インを極力活用する

<ご参考>

本著書に登場する駅舎は、“日本横断歩き鉄の旅“PDF 読本シリーズ中、カッシー館のブログに登場する「榎原勉文庫拡充」にて、次のPDF 読本からダイジェスト版でもご閲覧頂けます。

第 38 編（日本横断歩き鉄の旅）

伊東線・伊豆急行 駿豆線・大雄山線・箱根登山鉄道



修善寺

2022年1月11日 歩く鉄道作家 榎原 勉

第1章 伊豆急行・伊東線

第1節 1月28日（土）：伊豆急下田～今井浜海岸 晴れ

伊豆急下田(10:43)～蓮台寺(11:40)～稲梓(12:35)～河津(16:10)～今井浜海岸(16:35)

平成18年の第一歩は、1月28日（土）、晴天の中伊豆急線に挑戦する。朝5時半に起床し、南林間7時8分発の電車で藤沢駅まで行き、そこから7時38分の平塚行きに乗る。この電車は折り返し東京行きとなる。隣のホームで数分待ち合わせ平塚駅7時56分始発の5両編成の電車で熱海まで行く。そこから再度1番ホームに移動し、熱海9時6分発で伊豆下田駅まで行く。下田駅には10時43分到着。南林間から藤沢までが270円、藤沢から下田までが2,850円で片道に3,120円要した。これまでで最高の運賃となった。これからの挑戦は交通費が首都圏一円の鉄道運賃に比べ5割増になることが予想される。伊豆急はトンネルまたトンネルで当時開通経費は高かったであろう。それから土木技術を要したであろう。



伊豆下田駅

サスケハナ号

伊豆高原駅までは何回も来たことがあるが、それ以降は30数年前に1度来たのみで電車から見える風景は新鮮であった。鉄道は海岸に沿って続いていた。トンネルまたトンネルで下田駅へ。本日のコースは戦略にとんでいた。距離以上に難しい予感がした。

下田駅前にはペリー艦隊のサスケハナ号の模型があった。蓮台寺駅それから稲梓駅（いなずき）への路まで稲生沢川が友となる。国道414号を歩く。稲生沢川が国道414号の左右になる。鉄道は終始右側で進む。蓮台寺への道路標識を見て、通行人に蓮台寺駅への道筋を聞く。直進ではなく鉄道と逆の左折側にあったからである。駅看板が印象的な蓮台寺駅には11時40分到着。この駅前には稲生沢川と国道414号が平行してあった。その関係で遠くから前が全貌できた。立地条件的には箱根湯本の駅前に似たところもあった。11時50分、お吉ヶ淵に到着。ここから稲生沢川の中の遊歩道に移動する。桜の蕾をほんのり感ながら、足に優しいウォーキングであった。

落合橋の手前で稲梓駅まで 500mの看板を見つけ右折する。落合 1 号橋と落合 2 号橋を渡った先に稲梓駅 (12 時 35 分) があった。この駅は石段を 20m位上がった高台にあった。無人駅ではなく駅員が 1 名いた。乗客も 1 名駅前で待っていた。念のため、国道 414 号に戻らないで河津駅への路の可否を聞くが「ない」との回答を得る。稲梓駅から河津駅まで 5.4Km しかないにもかかわらず、ここから迂回が余儀なくされ、本日のウォーキングの醍醐味が始まる。国道 414 号を歩き、突き当たりの県道 14 号から右折し河津駅に向かう 16Km 位のコースであった。後の富戸駅で分かったのであるが、この近辺に山道を抜けるウォーキングがあるらしい。3 倍位の遠回りを余儀なくされたわけである。国道 414 号に出る途中、上り下りの頭上 20m の鉄橋を電車が徐行しながら通過する。12 時 48 分頃であった。12 時 55 分、日本三大薬師である米山薬師前を通過する。土肥への分岐点である箕作交差点を 13 時 5 分通過。



蓮台寺駅

稲梓駅

山また山を越え、14 時竹安という手打ち蕎麦屋 (地名は北の沢) を見つけ遅い昼食をとる。後で考えて見ると、この店しか食事する箇所は国道 414 号にはなかった。ここでの食事は色んな意味で意義があった。現在場所を確認したいこともあったし、近道があるか否かも知りたかった。この店を出る際、河津駅への道筋を聞く。開口一番、店の主人に「あと 12Km はあります。」との回答を聞いた時は、時間的面から瞬間的に相当狼狽した。しかし、奥様から「トンネルを越えた先に河津バガテル公園への路があり、そこを右折すれば河津駅まで出られます。」とホットな情報を得て安堵した。後で地図を確認したところ、4 Km 位ショートカットできるコースであった。竹安から 3 Km 位行った先に峰山トンネル (全長 189m) があった。このトンネルは峠にあった。このトンネルを出た先に、店の奥様から教わった河津バガテル公園への交差点 (15 時 5 分) があった。道路を下り、目的の河津バガテル公園前には 15 時 30 分到着。目と鼻の先に風土の森 (カワヅザクラ) があった。



峰山トンネル

河津駅

大型バスとすれ違う。坂また坂を下り河津駅には 16 時 10 分到着。この駅で記念写真を撮ろうとするが、駅舎前に「河津駅」という看板は見当たらず。看板駅でこのような経験はじめてである。駅員にも確認するが、ホームにしかないとのこと。諦めて駅前の河津市役所の看板で代用する。ここで終わりにしようと思ったが、辺りもまだ明るいので、国道 135 号（東伊豆道路）に出て、1.1Km 先の今井浜海岸駅を目指す。遊歩道が今井浜海岸まで続く。この近郊の海岸は遊歩道から 30m～40m 位下にあり、余り広くない砂浜が続いていた。今井浜海岸駅には 16 時 35 分到着。16 時 48 分の電車（伊東行き）で家路に向かう。伊東駅から 2 分の待ち合わせで、東京行きに乗る。自宅には 20 時到着。本日の営業距離は 11.5Km、万歩計は 48,370 歩だった。本日は温暖で晴天の中、戦略にとんだコースを歩くことができてよかった。



今井浜海岸駅

伊豆海岸線

第 2 節 2 月 11 日（土）：今井浜海岸～宮戸 晴れ

今井浜海岸(8:31)～伊豆稲取(10:20)～片瀬白田(11:37)～伊豆熱川(12:37)～伊豆北川(?)～伊豆大川(?)～伊豆高原(15:55)～城ヶ崎海岸(?)～宮戸(17:20)

伊豆急線の第 2 弾は、2 月 11 日（土）、今井浜海岸駅から富戸駅(ふと)までの 22.7Km に挑戦。本日も前回と同様快晴に恵まれた。朝 4 時に起床し、運良く、トリノ五輪の開会式を見ることができた。南林間駅 5 時 21 分の電車で藤沢駅に向かう。そこで乗り換え、小田

原行き JR 藤沢駅 5 時 49 分発に乗る。再度、小田原駅（6 時 21 分）で乗り継ぎ、熱海駅に 6 時 45 分到着。早川駅辺で辺りが明るくなり始める。熱海駅で 38 分待ち合わせ、7 時 23 分発伊豆急下田行きに乗る。今井浜海岸駅には 8 時 31 分到着。車中で乗車券を購入。南林間駅から今井浜海岸まで 2,880 円（うち小田急線 270 円）要する。なお、帰りの切符は富戸から南林間まで 2,030 円と大幅に減少。海側に向いた座席がある新型電車（赤と白模様）が 1 番ホームで待っていた。この電車で 30 分余り待つことになる。本日は海岸線の風光明媚な箇所を堪能するため、海岸線側の座席にする。片瀬白田駅から稲取駅までの鉄道は、台風や津波が来たら直ぐ水浸しになる恐れがある海岸線（海面から 3 m 位）を走っていた。地形から判断して、海岸線を走るしか手立てがないのだろう。



伊豆諸島



伊豆稲取駅

今井浜海岸駅には 2 週間前の夕方には駅員はいたが、今日はいなかった。この駅は国道 135 号線に沿ってあった。8 時 55 分、河津町見高にある赤松高架橋の先に本日最初の「見高浜トンネル」（197m）に出会う。9 時 40 分、河津町から東伊豆町の町境で伊豆諸島が一望できる箇所に到達。

大島（91K m²）、利島（としま 4.19 K m²）、三宅島（55.14 K m²）
新島（23.42 K m²）、式根島（3.82 K m²）、神津島（18.59 K m²）

大島ははっきり肉眼で確認することができた。その他の島はぼんやりしており確認するまでには至らなかった。10 時 20 分、稲取栈道橋を通り稲取駅へ。国道から稲取駅で上り下りの電車が停車している場面を運良くカメラに収めることができた。稲取駅は稲取栈道橋が唯一国道に繋がる出入口で、ここ以外の出入口は海と山が立ち塞がりないとのことであった。まさに蝸壺の中にある駅であった。鉄道は国道の右手側にあり、稲取駅は 100m 位下った先にあった。駅前の人に聞いた限りでは海岸線を通り抜けできないとのことであったが、途中登山道があることを確認した。この駅近郊には稲取温泉があった。



海拔 3 m を快走する伊豆急

片瀬白田駅

レスリング部で全国高校選抜大会出場の祝垂れ幕のある稲取高校前を 10 時 50 分通過する。11 時 5 分、本日最長 (425.5m) のトンネルである友路 (ともろ) トンネルに出くわす。歩道と車道が明確に分離しておらず、車に気をつけながらトンネルを通り抜ける。11 時 20 分、海面から 3 m 位の線路を走る下田行き of 電車に対面する。片瀬温泉が近くにある片瀬白田駅には 11 時 37 分到着。白田川親水公園の赤い鯉があたかも私を歓迎しているかのように、水面から 2 度飛び跳ねる曲芸の場面を見せてもらう。駅から少し行った先に白田川 (白田橋) があつた。橋には石を運ぶ人の姿をデザインした絵が描かれていた。橋を越えた先に片瀬温泉への案内版があつた。11 時 58 分、小井戸橋近郊の海岸では带状で海岸から 10m 位コバルトブルーから緑色に変色した海水に出くわす。公害のようにも見えた。熱川駅も国道から 150m 位下にあり、螺旋状で道路を下る。駅は稲取駅と同じく国道の右手側にあつた。100m 位の橋の下に伊豆熱川駅があつた。温泉の湯気が国道まで立ち上がつていた。

12 時 23 分、熱川温泉にある熱川バナナワニ園の前を通過。12 時 27 分、伊豆熱川駅に到着。駅前の磯料理うめやで昼食を摂る。熱川と言えば、昭和 30 年台のテレビドラマにあつた新珠美千代さん主演の細腕繁盛記 (山水館) を思い出す。他に滝田祐介さんや富士真奈美さんそれから故坂本九さんの奥様である柏木由紀子さんも共演してつた。女将の人情味・粘り強さそれから斬新なアイデアによる旅館への取り組みがドラマの随所に滲み出つてつた。顧客に目線におつた経営で、現在の経営の羅針盤になろう。昨今の巨人軍の経営と対照的である。駅前は観光客で賑わつてつた。稲取駅前も賑やかであつたが、それ以上であつた。この駅も稲取駅と同様蛸壺の中にあつた。稲取駅は登山道があつたが、この駅には全くなかつた。うめやを出る際、北川駅 (ほつかわ) への路を聞き確認。店員に「歩きで行く」と言つたら、不思議そうな顔をしてつた。螺旋上の道路を上る際、春一番が向かい風になり国道に出るまで労力を要する。



伊豆熱川駅

伊豆大川駅近郊海岸

13時10分、本日3回目の熱川トンネル(320m)に出くわす。更に、13時25分、197.5mある北川(ほっかわ)トンネルに出くわす。13時32分、頭上にある鉄道を通り過ぎる。鉄道が右手側から左手側になる。つるやという上り坂を上った先に北川駅があった感じであるが、上り坂への労力を惜しんだためクリアし損なう。そういえば朝トンネルとトンネルの間に駅があった。北川駅であることを観察していなかったのが敗因であった。この駅から700m位先(北川温泉入口)の箇所で国道から降りて、露天風呂の番台の人に路を尋ねる。歩いて7分位先の山間に駅があるとのこと。丁度、通り過ぎた遠くの山裾を見ると、下り電車が入る瞬間であった。この海岸に沿って露天風呂を経営する店を数店見かける。伊豆大川駅も国道から500m位高台(国道の左手側)に上った先にあった。駅は見えるが駅舎への道が見つからず。やっと、14時5分到着。駅前には閑散としていたが、この駅には駅員がいた。トイレ施設もちゃんと整備されていた。通り抜けの道がないため、再度同じ路を引き返し国道に戻る。

14時40分、東伊豆町から伊東市に入る。30m位の中の崎隧道を通り過ぎる。トンネルと隧道の違いが改めて何となくわかったような気がする。恐らく長さで区分するのであろう。伊東市に入り、道路の状況が何となく良くなる。赤沢日帰り温泉前に15時2分到着。上り坂を数Km登り、やっと伊豆高原駅に15時55分到着。途中全長12mあるハ幡野観音(15時32分)にお参りする。この観音さんの前で鉄道が左手側から右手側になる。伊豆高原は昔ゴルフで何回か来たことがある。それで、温和な感じの伊豆高原富士はかすかではあるが見覚えがあった。それから、保養エリアが続く伊豆高原のエリアも見覚えがあった。城ヶ崎海岸駅へ戦略を誤り、結果的に自分をミステリーゾーンに投入することになる。城ヶ崎海岸に出たい気分もあり、地図の通り、国道を直進し城ヶ崎高校のところを右折せず、ひとつ手前である城ヶ崎海岸への路とある県道109を右折する。このため、海岸に沿って山の障害物もあり、瞬間的に鉄道への道を見失う。真っ直ぐ直進した先は海岸に続いており、右手には城ヶ崎海岸遊覧船の船付き場と満月に近い月が伊豆の海にあった。山と海のコントラストがとても印象的であった。道路標識には城ヶ崎海岸3Km、富戸5Kmとあった。後で考えてみると、バス停がある近郊で城ヶ崎海岸駅への路があったと思われる。こ

ここで聞くべきであった。弾劾絶壁の山が海岸線に沿ってあった。伊豆急はこの山の向こう側を走っていたのだろう。17時が過ぎ、不安になり通行人に聞く。ここで初めて、城ヶ崎海岸駅を自分が通り過ぎたのに気づく。富戸駅まで15分位と聞く。何人もの人に聞きながら、坂道を上り、やっと富戸駅に17時20分頃到着。駅に着くや否や偶然にもこの前乗った電車（伊東行き）と同じ時間帯の電車が入ってくる。この電車に乗り、自宅には20時5分到着。本日の万歩計は54,107歩である。本日は山あり、海ありで戦略の多いコースでいい汗をかくことができとてもよかった。



第3節 2月18日（土）：宮戸～伊東～伊豆多賀 晴れ

宮戸(8:10)～川奈(10:05)～南伊東(11:25)～伊東(12:40)～宇佐美(13:55)～網代(16:37)～伊豆多賀(17:15)

伊豆急線の総仕上げは、晴の中、先週に引き続き2月18日（土）実施。富戸から伊豆多賀までの22.4Kmである。4時過ぎに起床し、南林間5時33分の電車で目的地の富戸駅に向かう。本日はJR藤沢駅6時9分発の静岡行きに乗る。電車は15両編成の特急電車並みの車両であり、熱海駅まで快適な気分で旅行できた。早朝にもかかわらず、車内は満席状態であった。小田原駅で乗客がどっと降りたが、またどっと乗ってくる。平塚駅辺りで夜が明けた。3回目ともなると、伊豆急にもなれ車内からの道路状況も頭に入ってきたが、伊東線と伊豆線沿線は海岸や山が微妙にからみ複雑であった。

先週道に迷いやっと辿り着いた富戸駅には、8時10分頃到着。この駅で貴重な情報入手。昨年10月、伊東駅から伊豆下田駅までの営業距離45.7Km（実質80Km）を6駒に分けて伊豆急線全線ウォークのイベントがあった。また、このイベントは15区間からなり、「吉田松陰 下田へ向かえ!!」をキャッチフレーズにしており、平成18年3月31日までの期間限定とあった。さらに、1駅完歩賞と全線完歩賞があるとのことであった。ただし、私のよ

うに、下田から伊東への挑戦は対象外であった。

- ① 伊東＝富戸：平成 17 年 10 月 1 日（土）
- ② 富戸＝伊豆高原：10 月 2 日（日）
- ③ 伊豆高原＝伊豆熱川：10 月 8 日（土）
- ④ 伊豆熱川＝伊豆稲取：10 月 9 日（日）
- ⑤ 伊豆稲取＝河津：10 月 15 日（土）
- ⑥ 河津＝伊豆下田：10 月 16 日（日）

これまでのウォーキングを通じて、この 6 駒の分類は理解できる。このコースの中で、伊豆稲取駅から河津までの道には特に苦勞した反面、一番醍醐味のコースのように私には思えた。しかし、残念ながら、稲取駅の駅員に河津までの道を聞いたが、イベントにあるような道順への説明はなかった。



富戸の駅前には小宮山コース等のウォーキングコースが多々あった。記念写真を撮り、8 時 15 分歩き開始。駅前から少し行った突き当りの道路を右に行くか左に行くか迷う。20 万分の 1 の地図なので詳細はわからなかったからである。道路状況を確認の上、左に進むことにする。結果は OK。9 時 3 分伊東行きのバスが私を追い越して行く。また、9 時 10 分と 9 時 30 分、左手側の山間に上下の電車を見て、自分が鉄道沿線の近くを歩いているのを確認できほっとする。伊豆急では特に電車と道路が平行に走っていない箇所が随所でありタイムリーな点検を要す。双曲線状になり鉄道を離れる恐れがあるからである。9 時 55 分、赤い屋根が印象的な喫茶店がある「見晴」というバス停前を通過する。ここから、伊豆の海が一望できた。曹洞宗の恵鏡院前を 9 時 58 分通過。

川奈駅には 10 時 5 分到着。駅舎の両横には伊豆信用金庫川奈駅支店と東急ストアがあった。ここで、伊豆急のウォークイベントを駅員さんから教わる。あわせて川奈駅から南伊東駅までの詳細な道も聞く。私の市販の地図には詳細な道順が記載されていないからである。川奈と伊東間に幹線道路はあるが、山が遮り、川奈＝南伊東の幹線道路は見当たらなかった。電車の窓から眺めるが山が遮りわからず。それで、駅員さんに道順を聞く。この

駅で川奈＝富戸間の道順は置いてあるが、川奈＝南伊東間の道順の案内図はないとのこと。この駅で、南伊東から川奈駅に到着したばかりのウォーカーと対面する。この人から南伊東駅で入手した案内図を譲り受ける。この地図で正式なイベントを知る。弐番札所から参番札所までの道順が詳しく乗っていた。それで、安堵する。この地図を頼りに南伊東駅に向かう。川奈口（コナカ）、殿山（日産）、小西医院（バス停長美代）、南中等が路の分岐点の目印に載っており分かりやすかった。当初の予定より大幅に早く 11 時 25 分到着。

殿山交差点の近郊で救急車に出会う。南伊東から宇佐美駅までは平坦な道が続いていた。このシリーズで初めてである。西小学校前の電柱には伊東市の鳥「イソヒヨドリ」が掲示されていた。伊東駅への近道の商店街（キネマ通り）で 12 時となり、屋台風ラーメンの空海に入る。この商店街を出た先に湯の花通りがあり、「お湯かけ七福神」の中の布袋さんと恵比寿さんに対面する。恵比寿さんに次男坊の商売繁盛を祈願する。先週は次男坊の卒業ができるか否か親として心配であったが、それもクリアでき重石が取れた安堵感からこの様な祈願になったかも知れない。この通りを出て、右手側に大きいターミナルがあり、伊豆急と伊東線の駅である伊東駅があった。12 時 40 分に到着。駅前のコンビニで買い物をする。



空海

お湯かけ七福神の布袋さん

宇佐美駅まで、海岸線に沿いやしの並木路が続く道路を右手にして歩く。13 時 10 分、サンハトヤの前を通過。13 時 45 分、梅の花が咲いた境内にある八幡神社前を通過。その先に宇佐美駅（13 時 55 分）があった。宇佐美駅は伊東市、網代は熱海市と記憶に入れたのが、本日の収穫の一つでもある。



伊東駅

宇佐美駅

ここから、トンネルのシリーズとなる。国道 135 号と一般道の区分が不明確のため、海岸線の道を歩く。海岸線に沿い宇佐美留田浜辺公園（14 時 15 分）が続いていた。海岸線の砂浜ではアサリ等を採取している人の姿を見かけた。また。サーフィンで波を楽しんでいる若者も見かけた。海にも何となく春の訪れを感じる一日であった。ゲートボールを楽しんでいる老人クラブも見かける。今歩いている道はまもなく山にぶつかり、先程の分岐点から誤った方向に進んで来たのに気づく。そこで、念のため車庫入れ中の奥様に聞いて東京方面の道を確認する。これから進むべき国道 135 号が山間にあった。聞き返すのに 10 分位要す。坂道を上り、網代駅を目指す。14 時 50 分、710.9mある最初の新宇佐美トンネルを通過。このトンネルを出るや否や 2 番目の 536.1Km ある御石ヶ浜トンネルを通過。海岸絶壁際にある木々は地震等の影響を受け、押し倒された樹木を数十本見かける。しかし、何とかもち応えようとしている生命力をひしひしと感じた。あらためて人生勉強の参考になった。

15 時 35 分、伊東市から熱海市となる。15 時 55 分、網代長谷観音前を通過。平成 17 年 6 月に竣工したばかりの立岩トンネル（全長 284m、幅 8.5m、高さ 4.7m）を通過。開通したばかりなので壁面はとても綺麗だった。このトンネルを出るとグリーンが印象的で足にとっても優しい感じがする橋が続いていた。最後は 525m の新網代トンネルを通過。このトンネルは火災でもあったのか、トンネルの壁はススで黒ずんでいた。本日は、先週のトンネルに比べ、車道と歩道が分離されており自動車への不安はなかった。このトンネルを出ると、網代温泉の町並みが続いていた。道路に沿い、乾きものの魚介類を陳列した店を見かける。老人が店番をしていた。網代駅には 16 時 27 分到着。海拔 5 m位の海岸線に沿い、2.7Km 先の伊豆多賀駅には 17 時 15 分到着。途中、八分咲きの梅をカメラに収める。伊豆多賀駅は国道 135 号から 300m位上がった高台にあった。本日の万歩計は 56,030 歩、充実した一日を送れて満足している。伊豆多賀駅 17 時 33 分の電車で自宅へ。自宅には 19 時 35 分到着。



左：網代駅 右：伊豆多賀駅

第4節 3月4日(土)：伊豆多賀～熱海 快晴

伊豆多賀(10:55)～来宮(13:15)～熱海(14:15)

伊豆急と伊東線の締めは、3月4日(土)快晴の中、伊豆多賀駅から湯河原駅までの11.5Kmに挑戦する。本日は家内と次男が香川の方に行く用事があり、愛犬セブンの朝の散歩をさせてから、伊豆多賀駅に向かう。自宅を9時前に出る。JR 藤沢駅9時44分、熱海駅10時44分の電車で、伊豆多賀駅には10時55分頃到着。駅前には梅や早咲き桜が開花していた。ソメイヨシノもそろそろ開花に向けた状況であった。伊豆多賀駅は高台にあり、海岸線が一望できた。10人位の若者と一緒に電車を降りる。伊豆急の車両は河津桜見物等で満員であった。車両の荷物の箇所には桜が1m間隔で飾られていた。



曾我浦大橋近郊の風景

10時55分からウォーキング開始。300m位の高台から降り国道135号線に出る。海岸線に沿って来宮駅を目指す。381.5mの赤根トンネルと11時35分対面。右側にはトンネルを通らず通り抜ける方法もあった。左には山、右手には断崖絶壁のコバルト色の海岸線を見

ながら進む。この地点は道路から水面まで100～200m位あった。赤根トンネルを出てからはレンガ造りの遊歩道を進む。3Km位はあっただろうか。曾我浦大橋（12時5分）から見る複雑な海岸の景観と桜のコントラストは最高であった。海岸を良く見ると、波により海草が魚のように揺らいでいた。それから1Km位先を見ると、遊覧船が初島に向かって進んでいた。錦ヶ浦トンネルは回避してレンガ造りの遊歩道を進む。錦浦扇崎の展望台の前で記念写真。海岸線至るところで展望台というか休憩所が1Km位の断崖絶壁に巣箱の如くあった。遊歩道を通って海岸まで降りられるようになっていた。12時20分、211m続く錦ヶ浦トンネル前に到着。このトンネルも通らず断崖絶壁の遊歩道も進む。熱海城の下を12時23分通過。熱海城は遊歩道から200m位急な坂を上った先にあった。遊歩道に沿ってロイヤルウイングとホテルニューアカオがあった。遊歩道から海岸までの絶壁にある木々は春の訪れで近々花を咲かせる準備体制を感じた。200mの長さのトンネルである洞魚観を通り抜けると、熱海の町並みが一望できた。高層ビルが目立ち、大都会の雰囲気であった。



曾我浦大橋

熱海城

12時48分、熱海海岸公園を通過。梅や桜で公園は華やかであった。それから、気温も温暖で花見に相応しい一日であった。12時55分、20年位前、数回宿泊したことのある当社縁のある起雲閣前（根津熱海別宅）を通過する。この旅館には熱海花火の時期にも来たことがある。急な坂を上り、13時15分来宮駅に到着。それから、熱海駅の途中にあった来宮神社（13時25分）をお参りする。13時40分、ラーメン屋（支那風）で遅い昼食を摂る。平和通り名店街を通り抜け、熱海駅には14時15分到着。15時、熱海桜の並木を通り、身代わり不動尊前を通過。不動尊は道路から50m位上がった高台にあった。この近郊ではJR線が国道下にあった。4Km位続く伊豆山を通り抜けると真鶴の海岸が続いていた。16時千歳橋歩道橋（千歳川）を境に静岡県から神奈川県となる。橋を渡るや否や左折して、湯河原駅を目指す。湯河原梅林と言う看板を随所に見かける。16時30分、湯河原駅に到着。17時前の電車で自宅へ。自宅には、途中夕食を摂った関係で18時50分到着。本日の営業距離は11.5Km、万歩計は37,684歩だった。



来宮駅

来宮神社

本日で矢板駅から伊豆下田駅までの鉄道（309Km）が繋がった。伊豆急線と伊東線は当初大変なコースに挑戦したと思ったが、終わって見ると戦略的にも富、海と山の2面から楽しむことができた。伊豆急線全駅踏破のイベントがあるとは思わなかった。いい発見をした。4日間のシリーズを通じて印象に残った区間は次の通り。

- ① 稲梓駅から河津駅までの山道対応
- ② 伊豆高原駅から富戸駅までの高原歩き
- ③ 富戸駅から南伊東駅までの複雑な道対応
- ④ 伊豆多賀駅から来宮駅までのレンガ造りの遊歩道

それから、河津桜、起雲閣、伊豆高原等の再会はよかった。天気にも恵まれ最高の気分で歩くことができた。それから山あり谷ありでいい運動にもなった。



熱海駅

湯河原駅

第5節 第22回わいわい会

～東海道線・伊東線（三島＝函南、熱海＝伊豆多賀）～

第22回わいわい会（高松一高同窓の歩き会）は、平成18年6月10日（土）～11日（日）、伊豆多賀にある民宿「みやこ荘」に一泊して実施。1週間前の天気予報は雨模様であったが、予想に反し、幸運にも10日（土）は晴となる。それで当初の予定通り、三島駅から伊豆箱根鉄道の大場経由で函南駅そして来宮駅までを目指すことにする。三島駅の南口に13名が集まる。



当初、藤沢8時1分の電車で三島駅を考えていたが、この日も遠足気分が抜けず、30分位早まり、藤沢7時30分の小田原行き電車で三島駅に向かうこととなる。小田原で10分位待ち合わせ、熱海行きに乗る。

三島駅には9時10分頃到着。熱海駅手前の車中で溝縁さんと出会う。三島駅を降りると、ベンチに腰掛けられた大崎先輩が私達を待っていてくれた。それから、初参加の西田さん（藤枝から参加）と久米さん（小田原から参加）の2名と出会う。それから谷本さん、木下さん、中島さん、宇賀神さん、森さん、坂本さん、高田さん、鶴巻さんと順次登場。鶴巻さんは新幹線を利用して、坂本さんは5時頃家を出たとのことであった。山下さんと福家さんも当初参加予定であったが、急遽所用ができ欠席となる。



三島大社

9時40分、参加メンバーに挨拶し、函南駅を目指すことにする。まず、三島駅を背景に記念写真を撮る。途中、JR沿線にある三島大社に立ち寄る。3カップルの神前結婚式が執り行われていた。この大社でも記念写真。谷本さんと中島さんが本日つたい歩きの地図を用意してくれていた。中島さんの地図を片手に、溝縁さんには歩く進路を誘導していただく。三島大社から青い電車の伊豆箱根鉄道線を探す。右往左往しながら、やっと伊豆箱根鉄道の踏切を見つける。そこから鉄道つたい歩きして、大場駅を目指すことにする。11時10分伊豆箱根鉄道本社を見つける。この駅には伊豆箱根鉄道の車庫があった。この駅で10分位トイレ休憩して、3.5km位先の函南駅を目指す。大場駅手前の道路まで100m位引き返す。上沢踏切を越えると三島南高校(11時30分)があった。三島駅は今歩いている道の突き当たりの右方向にあった。

函南駅は小高い山を越えた先にあった。あと駅まで500m先という道路標識を見つけた辺りから急な上り坂となる。その近郊に1軒寿司屋があったが、まだ食事処があると思いき直進する。この辺りで12時のサイレンを聞く。函南駅には12時5分位に到着。しかし、駅前には食堂らしき店は1軒もない。無論コンビニやキヨスクもない。それで、

メンバーと相談した結果、12時10分発の電車で熱海駅まで移動し、昼食を摂ることにする。タクシーで寿司屋まで引き返すことも考えたが。結局私達の選択は正しかった。下見をしておれば、弁当持参を連絡したであろう。また、このようなコースの設定はしなかったであろう。私にとって反省材料の多い一日となった。

昼食は熱海駅ビルの磯也で摂る。大ジョッキーの生ビールがとても美味しかった。ここで、1時間位初参加の西田さんと久米さんを交え歓談する。坂本さんが数十年前の写真のコピーを持って来てくれ、これを回覧し昔話に花が咲く。写真には、高校時代の西田さんと谷本さんの姿があった。二人とも何となく昔の面影があった。歓談の中で次回第23回わいわい会は大雄山線つたい歩きにすることを決める。この駅で残念ながら、西田さんと久米さんはアップする。



午後は函南まで戻り、予定通り来宮まで歩くことも考えたが、酒の酔いもあり急遽コースを変更し、熱海から民宿のある伊豆多賀まで熱海海岸沿いを歩くコースに変更する。この行程は3月4日（土）父が平成18年3月10日（金）急死する直前に歩いた。ただし、このときは伊豆多賀から熱海・湯河原を目指したが。熱海桜の花と波しぶきが印象に残っている。それ故、父の死とあいまって感慨無量であった。熱海海岸には赤い花の

ブーケンベリアが咲いていた。誤って国道 135 号線を上らず海岸線を歩く。前回は熱海城まで歩いて行けたのに。今回はロープウェイ (1,800 円) があり変だと思った。自己弁護するようだが、歩く方向が変わると風景がまるで異なり、別世界となる。15 分位引き返しに要す。上多賀のある庭先には、白い大きな花を咲かせた泰山木があった。思わず感動して宇賀神さんと一緒に記念写真を撮る。長浜海岸の目の前に白い 5 階建てのみやこ荘があった。隣にも民宿があった。みやこ荘には 16 時 10 分到着。熱海海岸辺りで本日の到着時間と高田さんが宿泊しない旨を連絡しておく。本日の営業キロは 12.2km、万歩計は 39,239 歩だった。

16 時 10 分、菊、藤等の 3 部屋の鍵をもらい、5 階まで移動する。部屋は 10 畳の和室でトイレは廊下に面して男女共用であった。部屋の前にはテラスがあり、国道 135 号線に面したテラスからは、長浜海岸が一望できた。海岸に面して海の家に利用されると思える広場があった。一服して、屋上にある風呂に入る。風呂は屋上の温室ルームの中にあった。室内と温室ルームまで階段を利用した場合、屋上を 4m 位歩いた先にあった。エレベーター利用の場合には屋上に出たところの 1m 位先にあった。温室ルームには大きな扇風機が備えてある脱衣場があり、戸を開けた先に 2m 四方のユニット浴槽があった。浴槽には常時 40℃ 程度の湯が注ぎ込まれていた。湯と水がでる水道が 4 組あった。うち 2 組にはシャワーがついていた。高田さん、溝縁さん、木下さんと一緒に入浴する。浴槽は狭かったが、湯加減は程よく歩きの疲れを癒してくれた。谷本さんと木下さんに 2 次会の酒とつまみをお願いする。10 分位先のファミリーマートまで行って頂く。



みやこ荘

宴会は4階に移動し18時より開始。20畳位の大広間が二つあった。ふたつの部屋ともカラオケが備わっていた。私達は新鮮で美味しい魚の歓迎を受ける。大崎先輩から高校時代の思い出を色々伺う。1時間30分位歓談し、カラオケに入る。各自1曲を歌ってもらい、後は希望者が順次咽を披露する。21時過ぎまで続く。それから、谷本さん等の部屋に移動し、2次会をする。同好会の運営方法や会費の水準等についても24時頃まで語り合う。翌朝は8時朝食、伊豆多賀駅9時43分発の電車で自宅に向かう。雨が降っていたため、2往復で伊豆多賀のマスターの息子さんに車で送ってもらう。この日もうまく電車に乗ることができた。次の電車は10時半までなかったのでラッキーであった。熱海駅で解散し、23回目のわいわい会も無事終了する。